

《担当者名》加藤正巳（非常勤講師 kato-shinri@hoku-iryo-u.ac.jp）

【概要】

新聞や雑誌の主に社会問題に関する文章を論理的に読解（インプット）し、自分の考えを表現（アウトプット）の訓練を討議や論述を通じて行う。特にグループ討議の時間は十分に確保する。論述試験を含む公務員試験や大学院受験を目指す学生にも役立つ内容になるだろう。

【学修目標】

例えば「公認心理士」の資格を取得し社会に出たとしても、その専門知識だけをもって仕事をするのは極めて難しい。「クライアントがどのように働き、あるいは教育を受け暮らしているのか」、「そこに法や経済がどのように関与しているのか」といった社会の仕組みや社会問題への理解が必要不可欠であり、クライアントに横たわる社会的背景への理解度とそれについての表現力によって仕事の質は変わってくるに違いない。これは、公認心理士に限らずあらゆる社会人に共通することである。

メディアを通じて日頃から社会・時事問題に関心を寄せる生活習慣を確立する。

新聞などのメディア情報の読み方、討議や論述によるアウトプットの仕方を身につける。

論説文を題材にして読解力、要約力、自分の考えを表現する力を高める。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	情報とは何か	情報の本質、インプット、アウトプットすることの意義 交通事故死した障害児の損害賠償減額判決	加藤 正巳
2	新聞の読み方・使い方	各自新聞を購入、持参する。記事の構成や見出しの使い方を理解する ヤングケアラー	加藤 正巳
3	新聞の読み方・使い方	「レポートの書き方」を学ぶ。 メタバース、高齢者免許返納	加藤 正巳
4	新聞の読み方・使い方	問いと仮説で考える 脱プラスチック社会	加藤 正巳
5	新聞の読み方・使い方	「メディアのスタンス」により記事にどれだけの違いが出るかを学ぶ 同性婚訴訟	加藤 正巳
6	情報リスク管理	フェイク、炎上、ステマなど情報リスクへの感度を高める ステルスマーケティング	加藤 正巳
7	論説文の読み方・使い方	対立する意見の両方の主張根拠を読み解き、自分の意見を持つ キャッシュレス社会の是非	加藤 正巳
8	論説文の読み方・使い方	対立する意見の両方の主張根拠を読み解き、自分の意見を持つ 香川県ゲーム規制条例	加藤 正巳

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート80%、授業への取り組み態度20%で評価する。レポートはコメントをつけて返却するので復習に活用すること。

【教科書】

使用しない。その都度プリントを用意する。

【参考書】

北海道新聞、読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞その他

【学修の準備】

授業期間中に新聞を学生自身が購入し読むように指示される。（1回予定）

論述や討議についてのレポート課題は、8回の講義のうち4回程度の予定。

1回あたり復習時間：30分程度

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得する、という心理学部のポリシーに合致

している。

【実務経験】

新聞社、広告代理店、プロサッカーチームの運営会社、金融機関など

【実務経験を活かした教育内容】

新聞社及び金融機関などにおいて得た社会人経験を反映させた時事教育も行う。